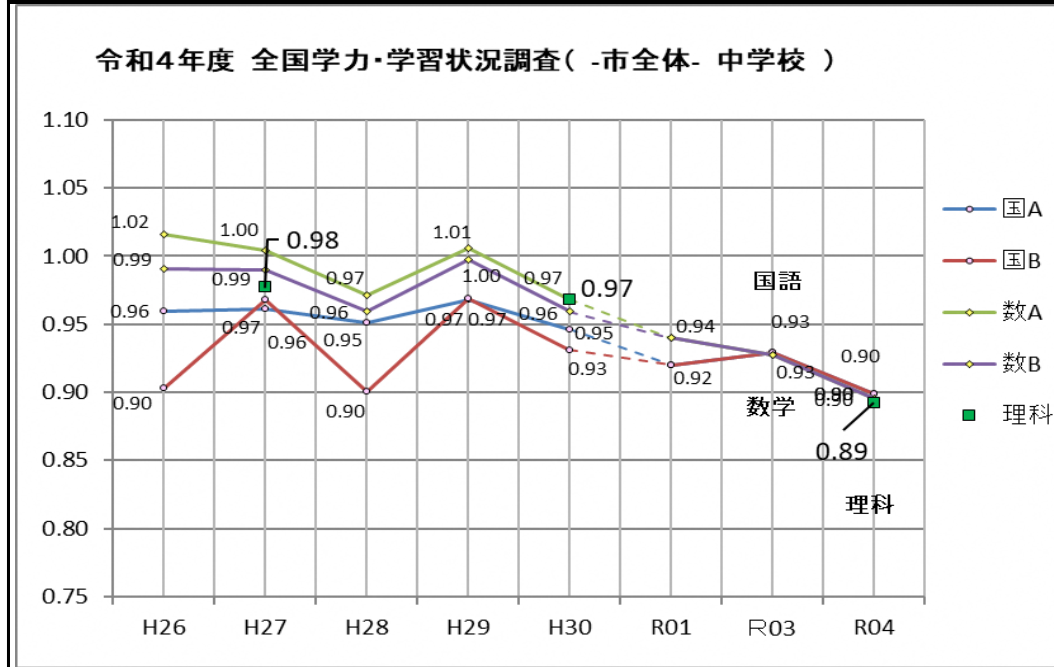


令和4年度 全国学力・学習状況調査

学校名	学級数	児童生徒数
四條畷市立 中学校		463人

1 対全国比の経年比較グラフ(H26~R4) 3 本年度の各教科分析



※ 全国(公立)の平均正答率を1として平均正答率で比較

2 対全国比の経年比較(H26~R4)

教科	H26	H27	H28	H29	H30	R1(H31)	R3	R4
国語(上A, 下B)	0.97 0.95	0.98 1.03	0.99 1.02	1.00 1.03	0.93 0.95	0.92	0.93	0.90
数学(上A, 下B)	1.04 1.05	1.05 1.07	1.08 1.01	1.04 1.04	1.01 1.00	0.97	0.96	0.91
理科		1.06			0.97			0.91
英語					0.98			

(1) 国語

(中)国語	問題形式別平均正答率(%)			問題別平均正答率(%)													
	選択式	短答式	記述式	1-	1二	1三	2-	2二①	2二②	2三	3-	3二	3三	3四	4-	4二	4三
全国[A]	73.7	70.3	57.4	74.7	65.1	51.8	82.3	82.1	80.5	46.5	52.5	84.0	62.0	73.8	39.4	90.1	81.1
四條畷市[B]	67.6	64.6	47.3	70.7	53.5	36.1	74.1	78.9	73.7	39.1	46.1	80.9	53.5	66.7	32.8	87.4	76.7
B-A	-6.1	-5.7	-10.1	-4.0	-11.6	-15.7	-8.2	-3.2	-6.8	-7.4	-6.4	-3.1	-8.5	-7.1	-6.6	-2.7	-4.4

◆自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すこと【1三】、論理の展開などに注意して聞くこと【1二】に課題がある。
 ⇒話すこと・聞くことの領域の各単元において、単元目標に合った言語活動を位置づけ、単元を通して目的意識をもって学び続けられる工夫や、目的に応じて話したり聞いたりする授業改善が必要である。
 ◆問題形式別では、特に記述式に課題がある。【平均正答率(%)全国との差-10.1】
 ⇒条件に合わせて文章を書く機会を学習活動の中に取り入れていく。
 ◆場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えること【3三】に課題がある。
 ⇒文学的な文章を読む際には、文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読み進めるようにする。

(2) 数学

(中)数学	問題形式別平均正答率(%)			問題別平均正答率(%)																	
	選択式	短答式	記述式	1	2	3	4	5	6	6	6	7	7	8	8	9	9				
全国[A]	52.6	65.7	36.2	52.2	74.5	44.9	37.9	83.3	73.8	48.7	37.6	44.0	44.1	54.6	38.4	73.2	12.5				
四條畷市[B]	47.8	60.4	29.3	44.8	68.9	40.7	39.6	75.9	69.3	37.8	30.2	38.3	35.0	53.7	30.9	65.2	9.3				
B-A	-4.8	-5.3	-6.9	-7.4	-5.6	-4.2	1.7	-7.4	-4.5	-10.9	-7.4	-5.7	-9.1	-0.9	-7.5	-8.0	-3.2				

◇問題形式別の【知・技/選択式】については、全国比の差が他問題形式と比べると小さい、無答率も低い【3,4,8(1)】。
 ◆一方、無答率や誤答例以外の誤答率が高かったのは、【①知・技/短答式】【②思・判・表/記述式】である。
 ①では、素因数分解の意味【1】、合同条件【9(1)】、連立方程式の解法【2】等、数学用語や解法の理解に課題がある。
 ⇒指導者が数学用語を進んで活用し、解法の手順を繰り返し確認することで、生徒も意識して数学用語を使うようになり、学習内容の定着に繋がる。
 ②では、事柄が成り立つ理由、事柄を調べる方法や手順を説明することに課題がある。【6(2)(3),8(2)】。
 ⇒自分の考えたことを口述や記述で表現することに課題がみられる。自分の考えた過程や結果を書いたり話したりする等、数学的に表現する活動を単元の中に位置づける必要がある。思考し表現する力を育む学習を深化させていくために、教科会等で研究を深め、積み重ねていくことが必要である。

(3) 理科

(中)理科	問題形式別平均正答率(%)			問題別平均正答率(%)																							
	選択式	短答式	記述式	1	1	2	2	2	3	3	3	4	4	5	5	5	6	6	6	7	7	8	8	8			
全国[A]	49.6	24.8	53.5	44.2	78.5	54.2	40.8	28.5	80.1	60.2	24.8	74.5	65.6	15.3	45.0	43.3	48.0	60.3	34.2	35.9	53.4	55.2	55.1	39.2			
四條畷市[B]	45.3	18.7	45.8	38.1	75.3	51.8	40.2	26.0	79.4	55.3	18.7	72.0	59.6	11.6	37.6	29.7	43.9	52.3	28.4	31.2	49.0	46.7	49.2	31.4			
B-A	-4.3	-6.1	-7.7	-6.1	-3.2	-2.4	-0.6	-2.5	-0.7	-4.9	-6.1	-2.5	-6.0	-3.7	-7.4	-13.6	-4.1	-8.0	-5.8	-4.7	-4.4	-8.5	-5.9	-7.8			

◆探究する場面において、視覚による情報を基に調べた実験結果を分析・解釈し、課題に正対した考察を行うこと【8(1)】に課題がある。
 ⇒生徒が自ら課題を設定し、解決する手段として実験を行い、結果について考察するという学習過程や、実験結果から思考・判断したことを考察として記述する等の学習活動を設定することが重要である。
 ◆考察の妥当性を高めるために、測定範囲や刻み幅について、実験の計画を検討・改善できるかどうかをみる問題【5(3)】や、科学的に探究する学習場面で、データをもとにした考察を、多面的・総合的に検討し改善できるかどうかをみる問題に課題がある【2(3)】。
 ⇒考察の妥当性及び検証の方法を検討する活動や他者の考えについて検討する学習場面の設定を行う必要がある。また、【5(3)】の問題は、無回答率は38.7%と高く、調べたことから必要な情報を取りだし、自分の考えや意見を記述する等の言語活動を位置づけ、教科横断的に授業改善をし、情報活用能力の育成を図る必要がある。
 《質問紙より》※数値は最肯定の項目 (68)「理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか」【市27.4、全国 35.8 ▼-8.4】が全国の割合より低い。
 「理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察している」と回答した子どもの正答率(48.1%)は「結果をもとに考察していない」と回答した子どもの正答率(34.3%)を上回っており、「考察すること」と正答率の間には相関が見られる。
 ⇒上記のような活動を学習過程に意図的に設定する等の授業改善が必要である。

シート内の表記について:◇(成果)⇒(成果の要因となった取組み) ◆(課題)⇒(改善に向けての取組みを例示)

4 学習状況調査			
(1) 肯定的回答の上位5項目(全国との差異)			
順位	全国との差	番号	質問内容【番号】
1	11.4	数2	解答時間は十分でしたか(50分)
2	11.2	35	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか
3	6.3	34	学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか
4	5.6	国2	解答時間は十分でしたか(50分)
5	3.6	49	国語の勉強は好きですか
<p>◆数学、国語で解答時間が十分であったと回答している生徒が多い。 ⇒解答時間が十分と回答しているが、正答率は全国を下回っており、学習内容の定着を図っていく必要がある。 ◇PC・タブレットに関する項目が多い。 ⇒学力向上担当者会議、校内授業研究、市主催のICT研修等の取組みが成果としてみられる。</p>			
(2) 肯定的回答の下位5項目(全国との差異)			
順位	全国との差	番号	問内容【番号】
1	-18.3	22	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)
2	-13.9	67	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか
3	-13.8	45	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか
4	-11.7	数1	今回の数学の問題では、言葉や数、式を使って、説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか
5	-11.5	68	理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか
<p>◆小学校と同様に家庭学習時間が少ない。 ⇒主体的に学習しようとする態度を育成し、家庭学習の習慣化を図る。また、AI型ドリルを活用して個別最適な学びを実現する。 ◆主体的・対話的で深い学び(観察実験の計画を立てる、必要な情報を取り出す、考察をする、発表する、文章で説明する)の活動が少ない。 ⇒校内授業研究を深化させ、より一層の授業改善を行う。</p>			

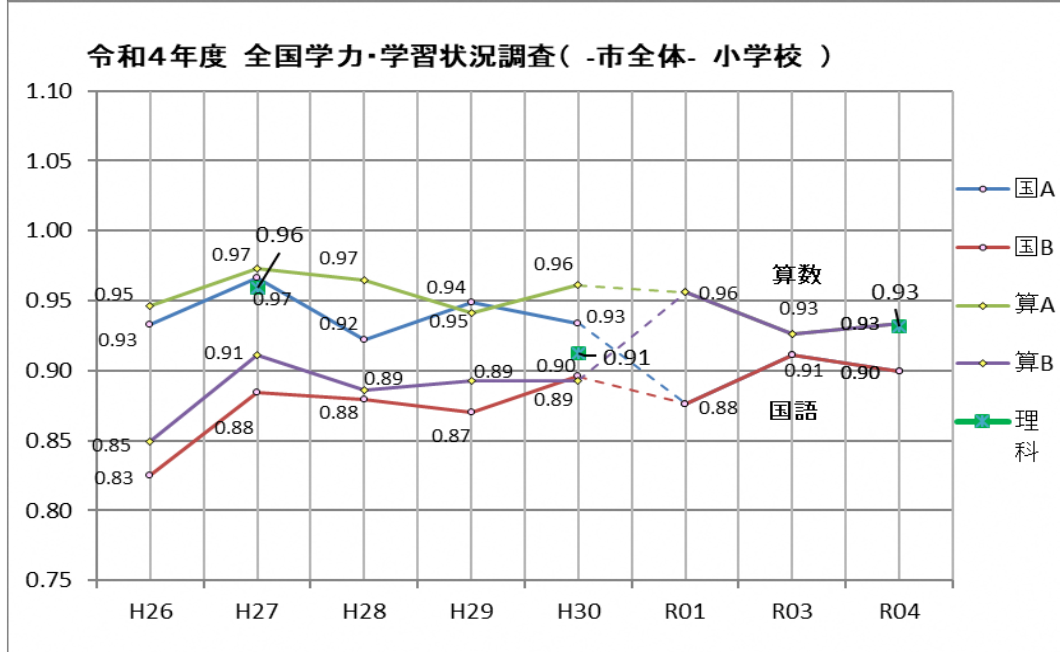
【市の重点と学力状況調査の相関】
(子ども主体の学習)(振り返る活動の充実)
◇◆小中学校ともに「課題の解決に向けて、自分から考え、自分から取り組んでいましたか」や「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問項目に、肯定的な回答をしている子どもの平均正答率が高い傾向(否定的な回答をしている子どもの正答率が低い傾向)が見られた。
⇒今後も主体的に学習に取り組む態度の涵養、振り返りの質の向上、各教科における「問題発見、問題解決」過程を重視した授業改善をより一層すすめていく必要がある。
◆生徒質問紙(39)「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の肯定的回答の割合が昨年度より低い(市:R3年度83.3% →R4年度72.6% ▼-10.7)。同様に、質問紙(44)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の肯定的回答の割合も昨年度を下回る(市:R3年度74.1% →R4年度70.4% ▼-3.7)。状況調査の回答は、マイナズ更新。「理由を説明する」「検証、考察する」などの問題に課題が見られた。
⇒めあてを意識した振り返りなど、指導と評価の一体化の授業づくりや、子ども主体の学習展開になるような授業改善が必要である。
(家庭学習)
各校において、家庭学習の手引き等活用しながら取組みが進められている中、「自分で計画をたてる」という意識で取り組むことが、学習の習熟にも一定効果があると考えられる。
⇒学校から提示された課題に対して、「いつまでに、どのように取り組む」「どのような目標で取り組む」など、子どもたちが主体的に家庭学習に取り組めるような工夫や、家庭学習の内容及び指導が必要である。
(記述式問題)
◇◆問題形式別にみると記述式問題の平均正答率(対全国比)は、(【国語】R3年度 0.80→R4年度 0.82)とわずかだが、改善傾向にはある。一方、【国】「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」(正答率 39.1)、【算】「数学的な表現を用いて説明することができる」(正答率 38.3%)、【理】考察の妥当性の検証方法を考える(正答率 29.7)等には課題がある。
⇒問題形式への不慣れさも考えられるが、必要な情報を取り出したりする情報活用能力を育てながら、自分の考えについて、言葉や文章で、根拠を明らかにして伝える等学習活動の工夫を行っていく必要がある。

シート内の表記について:◇(成果)⇒(成果の要因となった取組み) ◆(課題)⇒(改善に向けての取組みを例示)

令和4年度 全国学力・学習状況調査

学校名	学級数	児童生徒数
四條畷市立 小学校		449人

1 対全国比の経年比較グラフ(H26~R4)

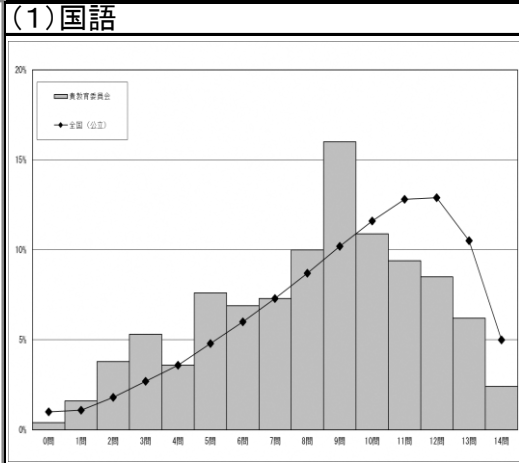


※ 全国(公立)の平均正答率を1として平均正答率で比較

2 対全国比の経年比較(H26~R4)

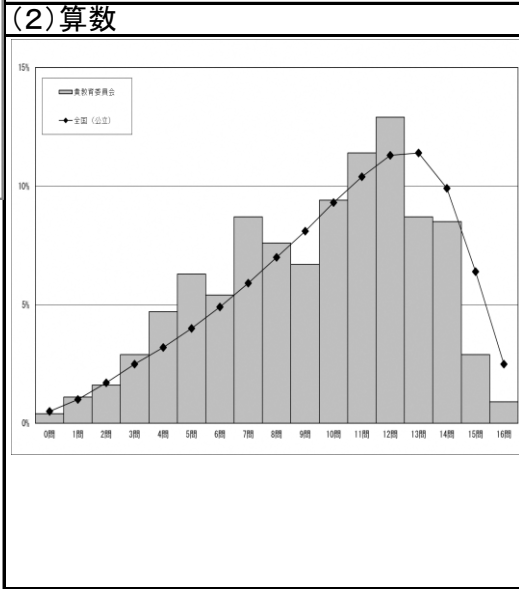
	H26	H27	H28	H29	H30	R1(H31)	R3	R4
国語(上A, 下B)	0.93	0.97	0.92	0.95	0.93	0.88	0.91	0.90
	0.83	0.88	0.88	0.87	0.90			
算数(上A, 下B)	0.95	0.97	0.97	0.94	0.96	0.96	0.93	0.93
	0.85	0.91	0.89	0.89	0.89			
理科		0.96			0.91			0.93

3 本年度の各教科分析



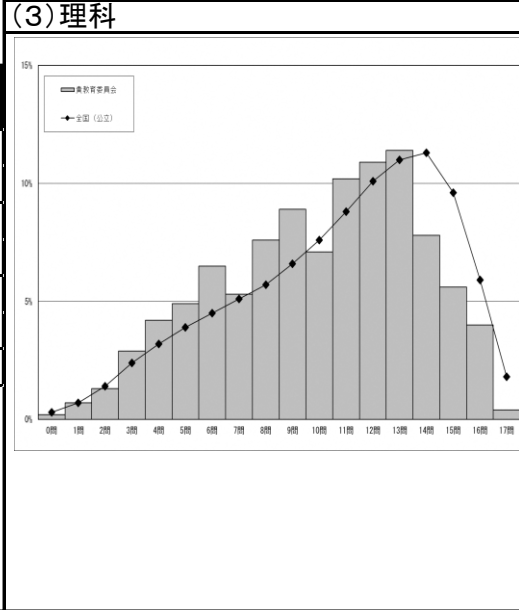
(小)国語	問題形式別平均正答率(%)			問題別平均正答率(%)													
	選択式	短答式	記述式	1-	1二	1三	1四	2-(1)	2-(2)	2二	2三	3-□	3二	3三ア	3三イ	3三ウ	3四
全国[A]	71.8	63.6	51.3	85.5	68.8	84.7	47.7	68.4	70.6	68.3	59.2	59.2	37.7	65.2	58.7	67.1	77.9
四條畷市[B]	65.1	55.0	46.0	80.8	63.7	78.0	41.0	60.1	68.2	64.8	55.2	47.9	32.3	54.1	50.8	60.1	66.6
B-A	-6.7	-8.6	-5.3	-4.7	-5.1	-6.7	-6.7	-8.3	-2.4	-3.5	-4.0	-11.3	-5.4	-11.1	-7.9	-7.0	-11.3

◇問題形式別平均正答率は「選択式」「短答式」「記述式」のどれもが全国を下回るが、「記述式」が「選択式」「短答式」に比べて全国との開きが小さい。[全国との差:「選択式」-6.7、「短答式」-8.6、「記述式」-5.3]
 ⇒授業で自分の考えを文章で表す活動を行ったり、「書くこと」を校内研究のテーマとして取り組んだり、継続的に取り組んでいく必要がある。
 ◆文章全体の構成や書き表し方に着目し、文や文章を整えること【3一、3二】に課題がみられる。
 ⇒書く領域の学習において、目的意識をもって学習に取り組めるよう単元を通じた適切な言語活動を設定し、児童が書く必要性を感じながら書き方の工夫を学び、活用できるようにすることが大切である。
 ◆漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと【3四】に課題がある。
 ⇒書きの時間を通し、計画的に漢字や仮名の大きさや配列に注意して書くことを日常生活の中でも意識的に行うことが大切である。



(小)算数	問題形式別平均正答率(%)			問題別平均正答率(%)															
	選択式	短答式	記述式	1(1)	1(2)	1(3)	1(4)	2(1)	2(2)	2(3)	2(4)	3(1)	3(2)	3(3)	3(4)	4(1)	4(2)	4(3)	4(4)
全国[A]	51.8	76.5	60.2	92.4	72.2	76.0	34.8	71.1	64.6	21.4	48.0	75.3	63.9	66.8	67.7	48.8	83.2	66.5	57.6
四條畷市[B]	46.6	73.6	54.9	92.2	65.4	69.9	27.2	66.5	60.7	19.6	40.8	75.0	59.8	63.6	63.8	45.1	81.9	59.6	49.8
B-A	-5.2	-2.9	-5.3	-0.2	-6.8	-6.1	-7.6	-4.6	-3.9	-1.8	-7.2	-0.3	-4.1	-3.2	-3.9	-3.7	-1.3	-6.9	-7.8

◇児童質問紙(算1):「全ての各問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童の割合は高く、無解答率が全国と比べても低い傾向にある。また、知識・技能に関する「短答式・選択式」問題では、全国比の差を他問題形式と比べると、小さい傾向にある。
 ◆思考・判断・表現力に関する「選択式」問題では、目的に合った数の処理の仕方の考察【1(4)】や示された作図の手順を基に、図形の構成要素に着目し、平行四辺形であることを判断する【4(4)】ことに課題がある。
 ⇒【1(4)】については、概数を求めるために、どの方法(切り捨て・切り上げ・四捨五入)を用いるか、文章の数量関係に着目し判断する活動を行うことで理解が深まると考えられる。
 【4(4)】については、作図した図形を構成する要素及びそれらの位置関係を読み取り、どのような図形になるかを判断できていないと考えられる。
 ⇒図形の学習において、観察や構成などの活動を通して、図形の意味を理解したり、図形の性質を見つけたり、作図の仕方を説明したりする学習活動を行うことが大切である。
 ◆思考・判断・表現力に関する「記述式」問題では、伴って変わる2つの数量が比例の関係にあることを用い、未知の数量も求め方と答えを式や言葉を用いての記述に課題がある【2(4)】。誤答例より、答えは記述できているが求め方は記述できていない。表を読み取り、答えを導き出していると考えられる。
 ⇒表や図・式・言葉を結び付けながら、問題解決の過程や結果を表現する活動を単元で設定する必要があると考えられる。



(小)理科	問題形式別平均正答率(%)			問題別平均正答率(%)																
	選択式	短答式	記述式	1(1)	1(2)	1(3)	1(4)	1(5)	2(1)	2(2)	2(3)	2(4)	3(1)	3(2)	3(3)	3(4)	4(1)	4(2)	4(3)	4(4)
全国[A]	66.8	66.2	47.3	92.9	67.5	73.1	76.1	65.5	67.8	70.0	62.8	39.3	27.8	74.4	68.9	35.1	82.3	64.5	45.5	62.0
四條畷市[B]	62.5	62.3	41.1	90.0	62.4	70.6	69.7	62.8	68.8	64.6	56.8	32.3	24.1	70.4	67.7	28.5	78.8	59.2	40.3	50.3
B-A	-4.3	-3.9	-6.2	-2.9	-5.1	-2.5	-6.4	-2.7	1.0	-5.4	-6.0	-7.0	-3.7	-4.0	-1.2	-6.6	-3.5	-5.3	-5.2	-11.7

◇一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く問題【2(1)】が全国を上回った。
 ◆提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつこと【1(4)】や、観察から分かったことを、分析して、解釈し、自分の考えをもつこと【1(5)】【2(4)】ことに課題がある。
 ⇒観察、実験等の結果について分析するための指導にあたっては、それぞれの気づきを明確にし、相違点や共通点から、問題を見出す学習場面を設定することが大切である。
 ◆実験や観察で得た結果を分析・解釈し、自分の考えを記述すること【3(4)】【4(1)】やその根拠を示すこと【4(3)】に課題がある。
 ⇒結果をもとに考察する際、互いの結果を比較したり、自分の考えとの相違点をから妥当性を検討したりする学習活動が考えられる。また、具体的な数値や分析した内容等を根拠に表現する場面を設定することが大切である。例えば、課題に対するまとめを行う際、結果を共有し、考察の根拠を明確にしたうえで、より妥当な考えをつくり出す活動が考えられる。記述が難しい場合は、選択肢から適切なものを選ぶなどの活動も考えられる。
 【質問紙より】(児童質問紙)(68)「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのかを考えていますか」【市42.5 全国47.0】と、(学校質問紙)(53)「調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行いましたか」【市50.0 全国 42.7】を比較すると、児童の意識と学校の意識との差も見られる。具体的な授業改善につなげるためには、「問題を見いだすことができる指導」や「観察や実験の結果を整理し考察する指導」場面での、具体的子どもの姿を想定し、学習過程の工夫等を行う必要がある。

シート内の表記について:◇(成果)⇒(成果の要因となった取組み) ◆(課題)⇒(改善に向けた取組みを例示)

4 学習状況調査				5 まとめ	
(1)肯定的回答の上位5項目(全国との差異)				【市の重点と学力状況調査の相関】 (子ども主体の学習)(振り返る活動の充実) ◇◆小中学校ともに、児童質問紙(39)「課題の解決に向けて、自分から考え、自分から取り組んでいましたか」や(44)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問項目に、肯定的な回答をしている子どもの平均正答率が高い傾向(否定的な回答をしている子どもの正答率が低い傾向)が見られた。 ⇒今後も主体的に学習に取り組む態度の涵養、振り返りの質の向上、各教科における「問題発見、問題解決」過程を重視した授業改善をより一層すすめていく必要がある。 ◆児童質問紙(39)「課題の解決に向けて、自分から考え、自分から取り組んでいましたか」の否定的回答の割合が全国平均より高い(市30.3%、全国22.6%)。また、(44)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」も同様に否定的回答の割合が高い(市26.9%、全国21.5%)。 ⇒自らめあてを立てたり、自ら問いをたてたり、振り返る活動を次の学びにつなげたり、対話的に学びを深めたりできるように、学習計画や学習の展開を工夫する等の授業改善が必要である。個々の授業改善はもとより、組織的に各校の学力向上の取組みが進むように、学力向上担当者会議の活用、校内の学力向上担当者や加配教員からの取組み事例の発信、授業スタンダードの内容理解と活用推進、子ども主体の授業づくりについて研究を深める必要がある。 (家庭学習) ◆(20)「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」の肯定的回答割合が全国に比べて低い(市60.1%、全国71.1%)。 ⇒各校において、家庭学習の手引き等活用しながら取組みが進められている中、「自分で計画をたてる」という意識で取り組むことが、学習の習熟にも一定効果があると考えられる。学校から提示された課題に対して、「いつまでに、どのように取り組む」「どのような目標で取り組む」など、子どもたちが主体的に家庭学習に取り組めるような、工夫や家庭学習の内容及び指導が必要である。 (記述式問題) ◇問題形式別にみると記述式の平均正答率(対全国比)が昨年度を上回った【(小国語)R3年度 0.87→R4年度 0.90、(小算数)R3年度 0.85→ R4年度 0.91】。 ⇒思考力・判断力・表現力を育む授業改善の成果がみられた。	
順位	全国との差	番号	質問内容【番号】		
1	4.5	34	学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか		
2	4.2	27	自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか		
2	4.2	32	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか		
4	3.5	28	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事の先生は除く)		
5	3.3	35	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか		
◇PC・タブレットを使用した授業がよく行われている。(34, 32, 35) ⇒学力向上担当者会議、校内授業研究、市主催のICT研修等の取組みが成果としてみられる。 ◇自然の中で遊ぶ、自然観察することがある。(32) ⇒自然が豊かな環境が身の回りにあり、自然と触れ合う機会が多い。					
(2)肯定的回答の下位5項目(全国との差異)					
順位	全国との差	番号	質問内容【番号】		
1	-13.6	22	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教えている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)		
2	-13.0	45	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか		
3	-11.0	20	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)		
4	-9.9	49	国語の勉強は好きですか		
5	-9.8	46	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか		
◆家庭学習を計画的に進めることに課題がある。 ⇒主体的に学習しようとする態度を育成し、家庭学習の習慣化を図る。また、AI型ドリルを活用して個別最適な学びを実現する。 ⇒総合学習と他教科をつなげ、教科横断的な授業方法を研究していく必要がある。					

シート内の表記について:◇(成果)⇒(成果の要因となった取組み) ◆(課題)⇒(改善に向けての取組みを例示)